

ウミガメの健康診断

魚類グループ 三浦 弘毅

浅虫水族館では年に1回、ウミガメの健康診断として体重・体長測定と血液検査を行っています。当館のウミガメは室内飼育のため、ビタミンD不足やカルシウム不足の懸念があり、3年前からは青森県中央家畜保健衛生所様の協力を得て血液検査を導入しています。ウミガメに限らず私たち人間も、太陽光の紫外線を浴びることにより皮膚でビタミンDが生成されます。このビタミンDは骨の形成に不可欠で、体内のカルシウム濃度を調整する役割もっています。そのため、紫外線を浴びない室内飼育だと、カメの骨の一部である甲羅に異常がでる可能性があります。それを予防するために血液検査を導入し、健康状態をチェックしました。しかし、この作業、実に大変なんです。大きい個体では80kg近くあるウミガメを水槽から出し、大暴れするウミガメの首から採血するので、スタッフ

はもうてんてこまいです。水槽内でウミガメを捕まえて、陸に揚げる位置までウミガメを誘導するスタッフはパワーがないとできません。さらに、採血をするスタッフは、厚い皮膚で血管の見えないウミガメの血管位置を探りながら注射針を刺すので経験と勘がものをいいます。

そんな苦勞を経て健康診断をしたウミガメですが、血液検査の結果は特に問題はなく、水槽内で元気に過ごしています。今後もこの作業を継続していき、ウミガメを健康に飼育していきたいです。



あむしNEWS

新しい広報活動へのチャレンジ

広報企画グループ 石田 勝則

新型コロナウイルスの流行により、当館では広告宣伝費を大幅に削減することとなりました。このピンチをチャンスと捉え、新しい広報活動のやり方を考え、限られた時間とお金の範囲内で大きな成果を上げる努力をしました。以前はテレビや新聞が大きな影響力を持っていましたが、スマートフォンが普及したことで、今ではスマートフォンがその役割を担うようになりました。そこで、SNSを活用した広報活動にコロナ禍前より力を入れることにしました。初めてチャレンジしたInstagram広告では、データを使ってしっかりと評価し、改善していくことができました。他にも、イベント告知のショーパルスクリンへの投影、年間パスポートを持っている方にタイミングよくメール通知を行うなど新し

い広報のやり方にチャレンジしました。これからも水族館の価値を高め、もっと多くの人に来てもらえるように努力していきます。



● 飼育生物

	種類	点数
海水魚	125	2,563
淡水魚	43	1,576
無脊椎動物	54	2,139
両生類	11	54
爬虫類	2	4
イルカ	2	9
アシカ	1	3
アザラシ	2	8
ペンギン	1	17
合計	241	6,373

2025年3月31日現在

● 入館者数

2024年度	一般	幼児など	入館者計
4月	14,645	4,418	19,063
5月	21,764	7,453	29,217
6月	18,619	7,273	25,892
7月	22,381	8,414	30,795
8月	44,028	12,707	56,735
9月	21,270	7,846	29,116
10月	15,353	6,242	21,595
11月	20,172	6,375	26,547
12月	7,790	2,747	10,537
1月	8,711	3,101	11,812
2月	8,688	3,038	11,726
3月	16,013	5,875	21,888
合計	219,434	75,489	294,923

表紙説明

2024年10月に開催されたイベント「ペタペタペンギン」にて、館内通路をお散歩するファンボルトペンギンたち。

マリンスノー No.45 2025年3月発行

青森県営浅虫水族館
〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25
TEL 017-752-3377 FAX 017-752-3379
<https://www.asamushi-aqua.com>

Marine Snow

@asamushi aquarium



2025.3

動物たちが館内をお散歩!

ペタペタペンギン

海獣グループ 加藤 愛

2024年10月の毎週土曜日に、ペンギンたちが海獣館の館内通路をお散歩する「ペタペタペンギン」が開催されました。このイベントは2022年の初開催以降、毎年恒例となっています。ペンギンは空を飛ばませんが、水の中をまるで飛ぶように泳ぐことが出来ます。また、歩くのは苦手なイメージがありますが、自然界では巣は海から離れた場所に作られ、餌を獲るために巣から海までは歩いていきます。「ペタペタペンギン」では、普段はあまり見る機会が無い、長距離を歩くペンギンたちの姿をご覧ください。よちよち



ペタペタペンギン風景

歩きで、「ペタペタ」と音を立てながら歩く姿は、お客様から歓声が上がるほどの人気ぶりです。普段のお食事タイムでは、フンボルトペンギンの餌や、換羽期・繁殖期といった生態に関する解説をしていますが、「ペタペタペンギン」では歩き方や足に特化した解説を行っています。3シーズン目となった今回は、初めて足裏のペイントに挑戦しました。ペンギンには、まずインクが染みこんだスポンジの上を歩いてもらい、次に画用紙の上を歩いてもらいます。



ペンギン足裏ペイント①



ペンギン足裏ペイント②

植物由来の100%天然素材のインクを使用したため、色合いも優しく、ペンギンたちの個性あふれた作品ができあがりました。紙の端っこにしか足跡が付かなかったペイントや、たくさんの足跡が付いたペイント、インクが飛び散ったペイント。それぞれペンギンたちの様子が想像できるような可愛いペイントでした。できあがったペイントは解説中にお客様に披露し、ペンギンの足の形や、指の本数、水かきがあることなど、普段とはひと味違った解説を行うことができました。

ペンギンたちは、はじめからシートの上をスムーズに歩けるわ

けではありません。最初のうちは環境に慣れずに戸惑っていたペンギンたちですが、本番では練習の成果を発揮し、歩いたり走ったりする姿や、お魚を食べている姿を披露してくれました。中にはスタート地点から動かない個体や、マイペースに1羽ぼつんと立っている個体もいて、「みんな違ってみんないい」そんな言葉がびったりのお散歩風景となりました。来年度もペンギンたちのたくさんの魅力が伝えられるような「ペタペタペンギン」にできるよう取り組んでいきたいと思ひます。

テクテクオットセイ

海獣グループ 春日 紗英

「ペタペタペンギン」に続き、12月には「テクテクオットセイ」を開催しました。このイベントは「ペタペタペンギン」同様、館内通路にキタオットセイたちが出てきて、目の前を歩く様子を解説付きでご覧いただくイベントです。「テクテクオットセイ」も今回で3シーズン目の開催ということもあり、環境に慣れているオットセイたちは、館内に敷かれたシートやライトに驚いたり、勝手にバックヤードに帰ってしまったりすることもなく、リラックスして実施することが出来ました。

「ペタペタペンギン」ではペンギンたちがペタペタと音を立てて歩く姿に「かわいい!」というお客様の声をよく聞きましたが、「テクテクオットセイ」では、オットセイの迫力のある鳴き声や体の大きさに、お客様も少し驚いている様子でした。しかし、オットセイたちが飼育員の出す合図に合わせて種目を決めると、歓声や拍手が湧きました。

前回までの「テクテクオットセイ」では、キタオットセイとゼニガタアザラシの生態や形態の違いについて解説をしていましたが、今回は、よりキタオットセイにフォーカスした内容で解説を行いました。キタオットセイ最大の特徴である「毛」のことや、青森近海に生息しているキタオットセイが漁網などの海洋ゴミが原因で衰弱し、まれに海岸に漂着すること。そして、そのような動物を見つけた場合にはどのような行動をとれば良いか、などです。

今回の「テクテクオットセイ」の解説は、海洋ゴミや環境問題について、私たち人間に何ができるかを考えるきっかけとなれば、という思いで行いました。今後も、お客様が楽しく学べるイベントができるよう取り組んでいきたいです。



テクテクオットセイ風景①



テクテクオットセイ風景②

大盛況! 5年ぶりの夜の水族館

広報企画グループ 久保 真司

夜の水族館(以下、夜水)はコロナ禍で休止して以降、お客様からの再開のご要望が一番多いイベントであり、この度5年ぶりに開催することができました。11月の毎週土曜日(17時~19時30分)に期間限定で開催した本イベントは、大変多くの皆様にお越しいただき(11月の平日・日曜は例年通りの入館者数でしたが、土曜日は前年の約2.8倍となり、11月の入館者数が1983年の開館年を上回る歴代最高記録となりました)、盛況のうちに幕を閉じることができました。

ハロウィンナイトをご存知の方もいるかと思いますが、今回夜水を再開するにあたり、夜の姿ver.もしくはハロウィンver.のどちらにするか、お客様のニーズをもとにスタッフで検討を重ねました。そして、原点である前者に返り、「生き物たちの夜の姿」をお伝えしたい、そのコンセプトで準備を進めました。

当日は17時から館内や水槽の照明を暗くして、夜の雰囲気を楽しんでいただきました。今回初導入の夜水限定モニター解説(イソギンチャクとクマノミ、チンアナゴ等)では、飼育員が作成した詳しい解説を通じて、生き物たちの夜の生態について新たな発見があったとの声を多くいただきました。また、1Fイベントホールに設置した特別水槽や、海獣館、いるか館での飼育員による解説も人気を集めました。訪れたお客様は、夜になると岩陰に隠れたりゆったりと泳いだりする生き物や、逆に行動が活発になる生き物たちの姿、そして昼とは異なる水槽の様子を興味深く観察されていました。さらに、軽食コーナーで提供したチーズ

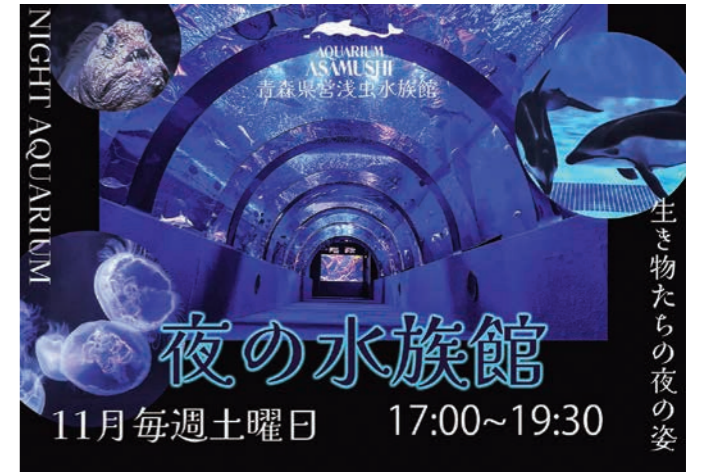


写真1. 夜水イメージ

ドックなどの夜水限定メニューも、多くの皆様にお楽しみいただきました。美味しい限定メニューと共に、特別なひとときを過ごしていただけたことと思います。

今回の夜水を通じて、多くの方々に生き物たちの夜の姿をご覧いただけたことをスタッフ一同、嬉しく思っております。これからも様々なイベントを通して生き物たちの魅力をお伝えしていきたいと思ひます。



写真2. イソギンチャクに隠れるカクレクマノミ

「めんこちゃん」ぞくぞく増えています♪

魚類グループ 竹中 樹里

「おらほのめんこちゃんコーナー」ではぞくぞくと新しい仲間が増えていきます。こちらの展示コーナーは、2023年7月に新設してからご好評いただいている、当館生まれの赤ちゃん生物の展示を中心としたコーナーで、2024年度はエゾハリイカとフサギンポの繁殖が大変にうまくいき、多くの稚子を育成することができました。

エゾハリイカは浅虫水族館の冬の展示生物の代名詞にもなりつつあり、独特な求愛方法が話題となりました。いまだ謎も多く、解明されていない生態を、現在も東京大学と共同研究しているイカでもあります。生まれたばかりの稚イカは5mm程でしたが現在では30mm程に成長していて、墨を吐く姿はもう立派です。それでも小さくてかわいいイカの姿には、観ているお客様も笑みがこぼれ、「かわいい~!!」と声をあげて喜んでくださっています。エゾハリイカの赤ちゃんが見られるのは当館だけではないでしょうか!?長期飼育できるよう管理し、次の世代(3世代目)の繁殖を目標に日々努力しています。

フサギンポについては約100個体の繁殖に成功し、沢山のフサギンポの赤ちゃんを展示することができました。フサギンポは、顔

周りにフサ(皮弁)があるユニークな顔が特徴です。孵化後1ヶ月もするとその特徴が見られはじめ、誰もがグスッと笑ってしまうような可愛らしさです。小さな体を守るために岩陰や貝殻の中に身を潜めて顔だけ出す姿は何とも言えません。どんな生き物も赤ちゃんの時期は一瞬で過ぎてしまいますので、そのかわいい時期を多くのお客様に観ていただけたことは、とても感慨深いものになりました。

今後もこちらのコーナーでは「いのちをつなぐ」というテーマのもと、生まれてきた命に向き合い、小さな命の持つ大きな感動と神秘的な姿をお伝え続けられたらと思ひます。



写真1. エゾハリイカの赤ちゃん



写真2. フサギンポの赤ちゃん